

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	新指向・鍼灸師を育成するための高度化(4年制)プログラムの開発と実証		
法人名	学校法人産業技術学園		
学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校		
代表者	理事長 浮舟 邦彦	担当者 連絡先	鈴木 紘次 TEL0123-36-8119
<p>1. 事業の概要</p> <p>鍼灸師およびその育成学科を取り巻く環境変化へ対応するために、既存の鍼灸師学科の枠を超え、新たに4年制学科を指向した各種の事業活動を展開した。以下に記述する通り、まず、鍼灸師を中心とした周辺環境に関する実態調査を行い、この結果を受けて4年制カリキュラムの開発を行った。さらに、そこで活用できる教育プログラムとして、国家試験対策のためのシステムと関連分野の講座を開発し、それぞれの実証を行いその有効性を確認した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>鍼灸学科の新しい方向性を打ち出し、それを実現化するために必要な条件を整えるという本事業の目的は予定通り達成できた。実態調査・カリキュラム開発・教育プログラム開発・実証実験・実証講座と多岐に渡った事業項目の中で、重点的に取り組んだのは、カリキュラム開発と教育プログラム開発である。前者は、4年間の間にバランス良く既存カリキュラムと新分野カリキュラムを配置することができ、実現性の高いカリキュラムとなったと評価できる。後者は、学生の国家試験対策支援および教員の学習指導効率化に十分に機能するシステムとして仕上がったと評価できる。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>本事業では、鍼灸学科の置かれている環境変化に対するために、モデル的な4年制学科カリキュラムを開発し、この運用に携わる教員の業務負荷を軽減と学生が取り組む国家試験の合格率を向上させるための対策システムを開発することができた。これらの成果は、それぞれの実証を行った結果、今後実際の学科運営に活用できる十分な可能性がある結果であったと評価している。</p> <p>③今後の活用</p> <p>本校では、今後数年間掛けて鍼灸学科の4年制化を検討する予定である。今回開発したモデルカリキュラムをベースにさらに実効性の高いものと志向して継続的な活動を行う予定である。また、教育プログラムとしての国家試験対策システムは、既存の鍼灸学科(昼夜間)でも活用できるものであり、次年度から実運用に生かしていく予定である。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>本教育プログラムの中核的な位置づけである国家試験対策システムは、学生の自習を促進する標準的な機能を実装している。しかしながら、今後さらに利用促進を行うためには、特に解答解説を拡張し、eラーニングとしての機能強化をする方向で開発を進める必要がある。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①実態調査

鍼灸師育成の新たな方向性を探ることを目的に、以下の内容について実態調査を行った。

- ・鍼灸師業務の現状と今後の動向
- ・鍼灸師国家資格試験の現状
- ・4年生大学及び鍼灸ニーズに対応した関連分野における教育カリキュラムの現状

Webや各種報告書などの公開情報の収集に加え、関連業界および教育界の識者へのヒアリングを行うことによって分析を行った。

この結果として、鍼灸師の職域は従来に比して多様化し、スポーツ分野・福祉健康分野・美容エステ分野などへと展開し、人材需要も高まっていること、そして、この様な分野を希望する学生は増えているものの国家試験傾向の変化などもあり、国家試験合格率は低迷していること、これに対応する方策が十分ではないことなどが判明した。

②カリキュラム

専門学校鍼灸学科3年制では、調査から明らかになった多様化するニーズに対して、新たに求められるスキルアップのための最適化されたカリキュラムが存在するため、新たに4年制学科モデルカリキュラムを開発した。このカリキュラムは、3年制学科をベースとして、新しい分野へ展開できるように、その繋ぎ部分および新分野をしっかりと学ぶことができる内容を追加したものである。最終的に鍼灸業界におけるプロフェッショナルな鍼灸師となるための4年間分の科目とその内容を取り扱っている。

③国家試験対策システム

国家試験対策では、過去問題や模擬問題を使って問題演習を繰り返し行うことが効果的であるが、教員側の準備に掛かる作業負荷が大きな課題であった。そこで、パソコンや携帯電話を積極的に活用するシステムを利用してこの状況を打開するシステムを開発した。直近の鍼灸師国家試験の第11回から第14回の4回分の出題640問をデータベース化し、試験科目となっている専門基礎科目10科目、専門科目5科目に対して、国家試験過去問題を区分した。過去問題の組み合わせの出題パターンとして、学力判定用(国家試験同等形式)と学力向上用(小テスト問題)の2種類を作成し、丁寧な解答解説も付与することによって、学生の自習を支援できるシステムとして完成させた。

④実証実験

パソコンおよび携帯電話による鍼灸師国家試験対策システムの有効性を評価するために以下に示す通りの実証実験を実施した。

- ・実施目的: 対策システムの有効性評価
- ・対象者数: 北海道ハイテクノロジー専門学校・鍼灸学科61名(昼夜間合計)
- ・実施期間: 平成18年10月～平成19年1月
- ・実施形態: パソコンまたは携帯電話を利用した自己学習

結果として、61名中23名(パソコン版)、20名(携帯電話版)が利用し、利用実績ログから利用者が着実に成績を向上させることができ、実施後のアンケート結果からは、利用した学生が総じて国家試験対策に有効性のあるシステムとの感想を持ったことが判明した。

⑤実証講座

本事業で開発した教育プログラムの有効性を確認するために、中核をなす3科目の実証講座を実施した。スポーツ鍼灸講座、アロマセラピー講座・メディカルメイクアップ講座である。それぞれ1.5時間の各科目カリキュラムの冒頭部分に相当する内容とした。各講座の参加者、1名・10名・7名からの講座終了後のアンケート結果からは、総じて講座の内容には好意的で、今後の科目開講に積極的に参加をしたい意思が明確であることが判明した。

⑥その他

本事業では、3年制が標準的である鍼灸師学科において、スポーツ・美容・福祉などの複数の関連分野も学べる柔軟性の高さでは、はじめての4年制カリキュラムである点で特徴的である。ここでは、鍼灸分野と各分野の繋ぎ部分のカリキュラムを配置することによってスムーズな学習が可能となるように工夫した。